

同窓生 シリーズ

73



43回生

西村 雄一
にしむら ゆういち

プロフィール

1994年
日本電子工学院
専門学校卒業
2004年
国際主審登録
2010年
FIFAワールドカ
ップ南アフリカ大
会準々決勝
「オランダーブラ
ジル」戦主審。
決勝戦で日本人初
の第四の審判員と
なる。

西村雄一さんロングインタビュー

《新宿高校の思い出は？》

(広報誌を見ながら) 体育祭！僕体育委員だったんですよ。2年・3年と2期やりました。あの頃は、運動会は校庭でした。道路に面しているほうが校庭で、プールがあつて。門を入るとすぐ朝陽会館があつたんです。新宿御苑の天然記念物の高い3本の樹が、どの校舎からも真正面に見えているような感じですね。テニスコートがあつて、グラウンドはサッカー部、野球部、ラグビー部が兼用してましたね。公式の試合もできました。ほかに、ハンドボールのコートもありましたよ。校庭も体育館も結構広くて、体育系の部活動は盛んにやっていたほうだったと思います。今は7階？…僕は4階建ての古いけど、歴史を感じるような校舎でした。僕らの学年は9クラスあつて、校長杯は2回もりましたよ。(卒業アルバム見ながら) 懐かしいなあ。「新宿体操」僕はやってないんです。当時、体育委員長だったんで、「体操部がやらずに誰がやるんだよ」ってうまく口説き落として、やってもらいました。僕は人前で踊りたくなかったので(笑)。

《試合によって違いがある？》

サッカーの審判はやって飽きないんです。常に新しいプレーに出会って、瞬時に判断していくのが審判の醍醐味。それが面白くてのめりこみました。僕にとっては、どの試合も決勝戦。

W杯も、Jリーグも、戸山戦も、試合の重さや価値に変わりはないと思っっています。ただ、試合によっては、メタリテを鍛錬する必要はあるかもしれない。経験・技術の積み重ねが、今僕の一番大事にしていることです。主役は選手、僕は脇役、審判や判定が観ている皆さんの記憶に残らなければ

ばそれが理想かな。自分のために笛を吹くことになってしまったらダメ。でも時に、人間としてのミスはあるから「次は必ず見るからごめんね」って正直にミスを認め、次へ努力する姿勢が大事です。

《アジア審判団の快挙》

W杯の主審に選ばれた時の心境は、「よく残ったなあ」です。最終的に南アに出発するトリオに残りましたが、審判ができるかどうかの確信もないまま機上の人に。現地につき、開幕戦やる気満々で来た各国のレフェリーがいる中で、イルマトフ(アジアのレフェリー)が開幕戦を任されたことは快挙で、それに続き、僕らも名前を呼ばれたので正直驚きました。ジャッジに関しては、FIFAが「君たちの基準でやってくれ」と任せてくれたことが光栄でした。



《皆さん「正しい判定」が好き》

今回のW杯で注目されたカード判定は、スーパースローでのリプレイがいい角度から撮られていて、多くの方々に注目されて受け入れられた珍しいケースです。皆さん、「正しい判定」が好きだったんですね。ですから、もし、正しく判定できていなかったら新宿高校の名を汚すところでした(笑)。僕らのレフェリーは、主審と副審2名の、3名が1チーム。試合中はチームワークを使って、主審と副審でプレーを挟

んで見ます。もちろん、お互いすべてが見えるわけではないので、そういう時は、自分をカバーしてくれる仲間の目や助言を一瞬で理解して、信用して、最終的に自分の責任でジャッジします。W杯へ向けては3年間の選考期間があり、その間3人のチームメイトと信頼関係が生まれ、あうんの呼吸になってきます。試合中に使用していた無線機は、使い勝手の良い道具ですが、主審と副審の呼吸があっていることが一番大事。笛も道具の一つですが、ただ吹くのではなく、気持ちをこめて、抑揚をつけて長さや強さなど使い分けていくことで、選手に受け入れてもらえるように努力しています。

《最後に新宿校生にメッセージを》

明確な夢を持っている人は、その夢に向かって全力で取り組んでください。明確な夢を持っていないと感じている人がいるならば、自分に期待してきている人の夢を叶えるという事も、自分の夢を叶えた事になるかもしれないと言ってあげたいです。両親が一番いい例だと思いますが、周りにいる人たちの中で、自分に対して夢を持つてくれている人が絶対にいるはずですよ。

今回、僕は、大勢の人に応援していただいて、その応援にこたえながら、その人の夢を叶えることが素敵なことだと気づかされ、それによって無限の力をもらいました。くじけることもこの先あるかもしれませんが、背中を押して応援してくれる方々を思い出して、いろんな逆境に直面したとしても、絶対乗りこえられると、そう信じています。みなさん、夢を見つけてその実現に向かって全力で臨みましょう！

編集後記

西村雄一さんインタビューを始め、PTA行事等盛りだくさんの号になりました。ご協力いただいたみなさんにお礼を申し上げます。
(二学年広報一同)



R100

古紙配合率100%
再生紙を使用

